

北海道銀杏会第5回講演会

日時 2009年11月28日(土) 正午～14時00分

場所 SAPPORO すみれホテル3階「ヴィオレ」

講師 昭和45年農学部卒 民主党衆院議員 首相補佐官国家戦略室担当 荒井 聡 様

演題「鳩山新政権の目指すもの」

新政権誕生から3ヶ月、鳩山新政権の「ハネムーン期間」を、まさにその中枢にあって首相補佐官というお立場で新政権の立上げに尽力されていらっしゃる最中の民主党衆議院議員荒井先生を講師にお招きし北海道銀杏会第5回講演会を開催しました。

荒井先生からは、初めに「政治主導」という政権の理念を具体的な政権運営の中で実践していく難しさについてお話いただきました。

特に先生が担当されている国家戦略室は、予算や外交方針を決める「国家戦略局」という内外から注目を集める新組織の萌芽となる機関で、行政組織法の改正等の行政手続きの準備やスタッフィング、他の機関との調整などに日々ご苦労されているお話をお伺いすると、国家戦略局の立上げが、単に「室」を「局」に格上げするといった単純な話ではないことが良くわかりました。

また全ての手続きを法令の定めに従って取り進めなければならない法令主義に基づく我が国の政治手法と慣例法に基づく英国の政治手法との違いなどにも言及され、この間の「政治主導」については準備不足と厳しい評価。

世論の喝采を浴びた行政刷新会議の「事業仕分け」についても、本来「議会」の重要な仕事の一つでありながら、議会・議員が国民の負託にできていない、国民の代表としてチェック機能を果たしていない結果であると、論断。

ご講演の後段では北海道農業の優位性、道産品に対する圧倒的な消費者の支持など本道にとって勇気づけられる話題も交えながら、豊富な行政経験と深い歴史認識に裏打ちされた鋭い洞察力で一つ一つのテーマを明解に解説される先生のお話に、あっという間の90分でした。

ご講演後の質疑でも、参加者からの「幼保一元化」、「プロの評価(市場の評価)に堪える金融政策」を求める声や、「温暖化ガス削減策と高速道路無料化の整合性」を問う声にもひとつひとつ丁寧にご回答いただき、講演会は盛会のうちに終了いたしました。

当日は、26名の会員の方にご参加いただきました。ご講演いただきました荒井先生ならびにご参加いただきました会員の皆様にあらためて御礼申し上げます。(文責 藤井文世)